

目次 index

STI Horizon 2021 夏号発行に当たって.....	3
STI Horizon 誌編集長 赤池 伸一 (科学技術・学術政策研究所 上席フェロー)	

新組織紹介

科学技術・学術政策研究所の機能強化について.....	4
科学技術・学術政策研究所 企画課	

特別インタビュー

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター (RISTEX) センター長 小林 傳司 氏インタビュー ー社会課題解決型調査研究、ELSI や EBPM をより正しく理解するためにー.....	6
2021 年度より RISTEX 社会技術研究開発センター長に就任された小林傳司氏に、就任の抱負とともに、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画とも関連の深い、社会課題解決型調査研究や ELSI、EBPM 等について伺った。	

ナイスステップな研究者から見た変化の新潮流

日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 シニア・テクニカル・スタッフ・メンバー 恐神 貴行 氏インタビュー 生物の脳を再現した機械学習の新技術開発 ー確率的な環境における意思決定技術に関する、科学への貢献から産業応用までー.....	11
人がより良く意思決定できるための研究に取り組む恐神貴行氏に、氏が開発した新技術「動的ボルツマンマシン」や、意思決定技術とトップカンファレンスでの入賞などの研究概要、研究者を目指す学生のキャリアパスや支援に対する考え方などについて伺った。	

筑波大学 システム情報系 助教 佐野 幸恵 氏インタビュー ー「物理」の視点で複雑な「社会」を研究する：SNS における情報拡散パターンの解析ー.....	16
佐野幸恵助教に、理系を選んだきっかけや企業経験を経て大学院博士課程に進学したきっかけなどの自身のキャリアについて伺うとともに、今後の研究の展望について伺った。	

大阪大学 大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学 准教授 武田 朱公 氏インタビュー 患者の目の動きを追跡する認知症診断の画期的な補助システム「アイトラッキング」のすゝめ ー武田 朱公 准教授が取り組む産学官連携ー.....	20
武田朱公准教授は、産学官連携を通して認知症診断の補助システム「アイトラッキング」の開発・実用化に取り組んでいる。本システムはスマート端末のカメラより患者の目の動きを追跡することで、認知症診断に役立てる。	

ほらいずん

経済協力開発機構 (OECD) グローバル・サイエンス・フォーラム事務局 田村 嘉章 政策分析官インタビュー ー OECD グローバル・サイエンス・フォーラムからの提言ー.....	24
科学技術予測・政策基盤調査研究センター 主任研究官 岡村 麻子 データ解析政策研究室長 林 和弘 経済協力開発機構グローバル・サイエンス・フォーラム事務局田村嘉章政策分析官に、社会的課題解決へのアプローチとして注目を浴びるトランスディシプリナリー研究や、デジタル人材の育成等の活動を紹介いただく。	

ハイブリッド型ワークショップ

「SDGs 実現に向けた地域の未来を検討する岩手ワークショップ」開催報告 29

科学技術予測・政策基盤調査研究センター フェロー 浦島 邦子、専門職 横尾 淑子、主任研究官 岡村 麻子、研究官 黒木 優太郎
上席フェロー 今井 寛*

コロナ禍による変化を踏まえた地域の未来像検討のため、対面とオンラインを併用したハイブリッド型ワークショップを岩手県で実施した。持続可能な岩手を目指して、豊かな地域資源を活用する方向性が示され、それを支える人材の重要性が指摘された。

3D プリンティングから 4D プリンティングへ

ーデジタルファブリケーションの新たな展開ー 35

科学技術予測・政策基盤調査研究センター 客員研究官 古川 英光、特別研究員 蒲生 秀典

4D プリンティングは、知能材料（スマートマテリアル）を対象に 3D プリンターを用いて作製した造形物に自発的变化を促す機能を付与することを可能にする。本稿では、材料・製造分野で注目されている 4D プリンティングの概要と研究開発動向について記す。

レポート

プレプリントの利活用と認識に関する調査 2020

ー COVID-19 と学術情報流通の現状ー 41

データ解析政策研究室 客員研究官 池内 有為、室長 林 和弘

プレプリントの利活用に関する 2020 年の調査結果を紹介する。日本の研究者 1,448 名のうち入手経験は 52.1%、公開経験は 20.4% が有していた。若年層ほど入手、公開率が高く、所属機関や分野による差もみられた。査読誌との関連で公開しないとする回答もみられた。

博士離れの要因についての一考察 47

第 1 調査研究グループ 上席研究官 治部 真里

科学技術・イノベーションの基盤である人材の「博士離れ」を生む要因の中に、継続性を保証されない外部資金による不安定な有期雇用の増加、研究者市場及び我が国の労働市場における低い流動性があることを示す。

* 役職はワークショップ開催当時